

ジム・カヴィーゼルが警告：キリスト教徒は「途方もない 迫害」に直面している

『キリストの受難』の主演俳優が、信教の自由を潰そうとする動きに警告

【訳者 Greatchain】

このイエスを演じた俳優の警告は、SOTN のアメリカ愛国者に宛てた手紙を含めて、最近の数篇の我々のブログ記事と、危機意識を共有している。我々の初めから取ってきた観点も基本的に同じである。

手短かに言うならば、従来の「信仰者・不信仰者」という分け方自体が、不適切である。我々の信仰は、「自由選択科目」の一つとしてあるのではない。「オプション・ツアー」のオプションではない。いま問われているのは、我々が集団的に目を覚ますべき信仰の問題である。それは死ぬか生きるかを選ぶべく、要請されたものである。傍観者の問題ではない。この俳優が、必死に行動を呼びかける意味もそこにある。それは、我々の意識構造に革命が起こるかを否かの問題であって、教会へ行って信心を固める話ではない。まして、武器を取って戦うことではない。そしてこれは今、不思議にもわかり易く、トランプ-対-反トランプという形をとって現れている。

最後の「[関連記事](#)」の、ある尼僧による警告を読まれるとよい。Anti-life (反生命) という言葉が、的確にこの死ぬか生きるかの事態を表現している。

Jay Greenberg @NeonNettle

October 5, 2020



俳優の Jim Caviezel が、キリスト教徒は、将来、前代未聞のレベルの迫害に直面することになると警告している。

2004 年映画『キリストの受難』(本邦訳『パッション』)で、イエスを演じたカヴィーゼルが、もし将来の世代まで、自分たちの宗教を残そうと思うなら、信教の自由のために戦わねばならないと言っている。

「誰もいまだかつて、ニセの道德の陳腐な言葉にまたがって、勝利へ乗り入れた者はいない」と、カヴィーゼルは、ある新しいインタビューで LifeSite News に語った。

<https://www.lifesitenews.com/news/jim-caviezel-christian-way-of-living-will-soon-be-gone-prepare-for-massive-persecutions>

「我々は大胆に真理を語らねばならない。」

カヴィーゼルの新しい映画 *Infidel* (信仰なき者) は、「現代の中東のスリラー」だと言われている。

それは、「あるアメリカ人が、カイロで、ある会議に出席している間に誘拐され、イランで、スパイ容疑をかけられて投獄される」ストーリーだと言う。

<https://www.infidel911.com/synopsis/>



「野蛮人のようなキリスト教徒の迫害は、今日でもずっと続いています」と、この俳優は言い、続いてこの映画の意図を明らかにした。

「その（映画の）目的は、この問題にかかわるべき、キリスト教徒・非キリスト教徒にとっての、ある緊急性と重大さの感覚をつくり出すことだと言えます。」

カヴィーゼルは、キリスト教徒にとって重要なことは、この迫害という悩み苦しみに注意を向け、行動を起こすことだと言っている。

「福音書を読んでみても、ただそこに坐って、〈なんと気の毒に〉と言っているイエスを見たことがない」と彼は言い、この問題についてよく起こる、無感動に触れた。

彼は LifeSite News に対し、今、変化が起こりつつあるが、それはすべて良いものではないと言った。

「あなたは、民主主義がどういうものであったかを、知らなければよかったとさえ思うでしょう。」

「これまでのキリスト教徒の生き方は、やがて消えるでしょう。」

「我々は、この途方もない迫害のことを言っているのです。」

アメリカでの墮胎の問題に関連して、「我々は、これまで前例のなかったレベルで人殺しをしている」と彼は言った。

最近、墮胎に関してバージニアとニューヨークで通過した法律は、「ルシファー教」だと彼は言った。



ジム・カヴィーゼルは、民主党の Ralph Northam 知事の、バージニアで通過した堕胎法は、「ルシファー」のものだと言った

インタビューの中で、彼は、「今、ある種のヘイト・スピーチ団体がある」と言っている、リベラル派のグループの言葉を引用した。

「なんと、いま我々は、〈ヘイト・スピーチ〉団と目されているのです。」

「我々は、イエス・キリストの福音が、検閲されようとしている所にまできているのです」と彼は言った。

「人々の生き方を見ていて、もしこの国のキリスト教徒が、ずっと何も言わないなら、これが神聖な生き方なのだ、と考える人たちが現れるでしょう」と、彼は言った。

「しかし、もし彼らが沈黙し続けるならば、キリスト教文化は、もはやその形をなくし、何か別のものになってしまうでしょう。」

「祈りはどうなりましたか？」と彼は、後にインタビューで言った。

「家族の間で祈ることに、何が起こったのですか？」

カヴィーゼルは、他の人たちは屈するかもしれないが、自分は屈しないと行った。

「我々の主は愛されるに値することを、私は知っている。だから地獄がやってこようと、津波が起ころうと、私はそれを続ける」と彼は言った。

関連記事：「尼僧がアメリカに警告：バイデン-ハリスは〈考え得る最も反生命的な大統領候補者だ〉」

<https://neonnettle.com/news/12464-nun-warns-america-biden-harris-the-most-anti-life-presidential-ticket-ever->

——以上

